

美術部へようこそ! 埼玉県上尾市立西中学校

学校や地域に貢献する活動を大切にしている西中学校の美術部。
入学式のための黒板アート制作を中心に、その活動についてご紹介します。

入学式の“黒板ジャック”

緊張でいっぱい入学式の日、教室に入って真っ先に目に飛び込んでくるものが、カラフルな絵と歓迎のメッセージで彩られた黒板だったとしたら——。上尾市立西中学校の美術部が毎年取り組んでいるのが、入学式を迎えた1年生のための黒板アートだ。1年生の各教室の黒板を、絵とメッセージで“ジャック”する。

きっかけは3年前。小・中学校などを訪れて黒板アートを制作する大学生の活動が、テレビで紹介された。それを見た部員たちは、顧問の兒嶋^{こじま}昂子^{あきこ}先生に提案した。「自分たちもやってみよう」と。

先生は当時を振り返る。「自分たちのアートをつくる。そんな生徒の自主性を尊重したい。これが私の願いです。だから、この提案には大賛成でした。でも、黒板アートは私も未経験。彼らは、自ら描き方を発見して、技法を身につけていきました」。

新しく加わる後輩たちにエールを送りたい。その思いが伝わり、入学式の“黒板ジャック”は、1年生やその保護者に喜びと感動をもたらす恒例の取り組みとなった。

美術部で、心の成長を

7クラス分の黒板アートを、3～4人のグループで分担して制作する。新3年生と2年生の合同グループで

は、生徒どうしの教え合いが自然に生まれる。仲良く、お互いに高め合っていく集団であること。これは、兒嶋先生が掲げる美術部の方針だ。

そしてもう一つ、大切にしているのが、学校や社会に貢献するという活動。同校では、美術の時間に生徒が制作した作品を、廊下の壁面などのいたるところに展示する「学校美術館プロジェクト」という取り組みが行われている。美術部は、その展示活動も担当する。さらに学校外に目を向けると、地域のボランティア活動として、盆踊りや安全講習会の告知ポスターの制作も、毎年担当。

「作品制作と並行してこれらの活動をこなすのだから、忙しい毎日です。でも、生徒には、社会に役立つ経験をさせたいと思っています。地域の人からの感謝や賞賛は自信につながります。よい仲間づくりとともに、心の成長も遂げていく。美術部はそんな場でありたいんです」と、先生は語る。

こうした共同制作の活動によって、一人一人の発想力や表現力もまた、磨かれていくのだという。2年生の部員は、「みんなで一つのものをつくるって大変。でも、自分では思いつかないアイデアをもらえることもあるんです。それが共同制作のいいところ」と、うれしそうに話す。

思いのこもった黒板アートは、今年も多く笑顔を生んだことだろう。



上/部員は全部で20名。校歌の歌詞からイメージを広げてデザインを考える。写真は、「宇宙へ開く限りないこの空の下」の部分をもとにデザインされた黒板。
左/上とは別の黒板。地球にうっすらと浮かぶ雲は、筆でぼかして描く。右/使用するチョークの色数は10色程度。複雑な色は、重ねて塗ったり粉を混ぜたりして表現する。

教室を飛びだして

「ミチバタ版画」ワークショップ(青森県青森市)

アートと音楽にあふれたまちづくりに取り組む団体「アートでオン!」。2014年に行われた版画ワークショップの内容を中心に、その活動をご紹介します。



ぶたや津軽三味線などの伝統、棟方志功ら芸術家を生んだ自然や文化。そんな豊かな背景をもつ青森市が、いつでもアートと音楽にあふれたまちになるようにと取り組む団体、それが「アートでオン!」だ。

発足は、2013年。以来、市とともに、市民の文化・芸術に関わる活動への助成、イベントの企画・運営などを行う。「私たちが目指すのは、アートと音楽にあふれたまちづくり。それには、次代を担う子どもたちを巻き込むことも欠かせません」と、事務局の菊池孝康^{きくちたかやす}さんは語る。

例えば、3年前に開催された「ミチバタ版画」ワークショップ。青森市を中心に活躍する版画家の指導のもと、市内中学校の美術部員が彫った版木から帆布に刷り出し、地元商店街の日よけを制作した。

刷るときに使ったのは、道路舗装用のロードローラー。青空の下で行われたこの大がかりな版画は、参加した中学生たちに大きな刺激を与えたという。さらに、完成後の日よけは、商店街を歩く市民の目を楽しませた。「今後もこうした取り組みや助成事業を続け、次世代と関わっていききたい。そして将来的には、市民の芸術的活動を支援するアーツカウンシルのような役割を担えたら」と、菊池さん。これからも、10年先、20年先の青森市を見つめた活動が、アートを通してまちづくりを担う子どもたちを育てていくことだろう。

「アートでオン!」
<http://art-on.aomori.jp>



「この子たちは、地域の子どもたち」。商店街の人たちが子どもを見る目も変わった。

放課後

第11回

ART